

課題提供:筑波大学未来社会工学開発研究センター

筑波大学未来社会工学開発研究センターは、筑波大学とトヨタ自動車が共同で設立した Society 5.0 を実現するモビリティインフラの先端研究拠点です。2019 年度の g-RIPS-Sendai では、トヨタ自動車が同センターとの共同研究を通じて、未来の MaaS (Mobility as a Service) に関する 2 つの課題を提供しました。



Project 1: Design for the next generation mobility service in suburban areas - **Mobility service for university campus**
郊外地域における次世代モビリティサービス — 大学構内における MaaS

Project 2: Design for the next generation mobility service in suburban areas - **Mobility service for hospital guests**
郊外地域における次世代モビリティサービス — 医療施設における MaaS



ふたつのプロジェクトに対して、米国人学生 4 名、日本人学生 3 名がチームとなって取り組みました。

e-Palette (トヨタ自動車が発表したモビリティサービス専用 EV) をこれらの MaaS に使用することを想定し、経済学の方法論も導入し、顔

認証システム等とも組み合わせた総合的な最適化戦略についての研究を行いました。



筑波大学未来社会工学開発研究センターは 2020 年度も引き続き g-RIPS-Sendai プログラムに課題提供者として参加し、さらに新しい MaaS に関する課題を提供する予定です。

